

雪活用発電、可能性は

電気通信大 榎木准教授 温度差利用の方法解説

大石田

雪を使った発電の可能性を探る講演会が1、2の両日、大石田町と尾花沢市で開かれ、電気通信大（東京）の榎木光治准教授が、雪と外気の温度差を利用した「積雪発電」の特徴を解説した。

尾花沢

2の両日、大石田町と青森市、IT企業が廃校となった青森市の旧小学校プールで実証実験を行い、発電ができることを証明した。環境負荷の低い発電方法として国内外から注目を集めている。

大石田町虹のプラザの講演会は約70人が参加し

大石田町虹のプラザの講演会は約70人が参加し



積雪発電の特徴を解説する榎木光治電気通信大准教授（奥）＝大石田町虹のプラザ

た。榎木准教授は雪が持つ特性として、熱伝導性や蓄熱性などに優れる点を挙げ「雪に対する新しい価値観を持ち、工業的な利用価値を付けて技術を普及させる必要がある」と強調。「脱

炭素社会構築に向けて地道なエネルギー活用が重要となる。無尽蔵にある雪の活用が不可欠」と説いた。尾花沢は市役所を会場に約50人が聴講した。

（木村敏郎）

「山形新聞 2023年6月4日」

記事提供／山形新聞社